

7 審査結果の意見・講評

令和3年度水道事業会計を審査した結果、会計処理や決算事務について、一部に誤りが見られ、決算書や決算附属書類の修正を求めた。誤りの原因は、職員の計算誤り・確認不足・認識不足や、組織的な確認不足、そして進捗管理に課題があったためとしている。

前年度も、チェック機能をはじめとした内部統制の強化を求めたところであるが、改善につながるよう、職員の育成や管理機能などの内部統制の強化を実現するための体制づくりに、真摯に取り組まれることを望む。

(1) 事業概要

水道事業は、主に、老朽化している配水管等の更新や水道施設耐震化など、安定給水のための事業を計画的に実施している。

本年度は、ビニル製配水管をはじめとする経年配水管の更新や、老朽化した浄水施設機器の更新を行っている。また、上下水道部合川庁舎のZEB化改修を実施して、庁舎の電気・ガス料金の低減と温室効果ガス排出量の削減を図っている。

(2) 経営成績及び財政状態

収益的収支については、総収益が前年度に比べて増加したが、それ以上に総費用が増加したため、純利益は前年度に比べて減少し、経常収支比率も低下している。収益の中心である水道料金は微減している。

経営指標については、ほとんどの指標が全国平均との比較では良好であるものの、今後も企業債償還が続くため、余裕のある償還能力の確保に努められたい。

(3) 意見・講評

前年度との比較では、水道料金収入が223万7千円(0.1%)減少し、有収水量も約10万5,000m³減少している。口径別料金収入については、前年度に大きく増加した小口径(家庭用)が微減に転じ、大口径(主に事業用)は引き続き減少している。本年度からの10年間を計画期間とする「久留米市上下水道事業経営戦略」では、人口減少や一人当たりの使用水量減少により給水量の減少傾向が続き、それに伴い料金収入も減少していくと推測している。一方、老朽化した管路の大量更新や施設の耐震化での費用増大が見込まれ、今後の経営環境は厳しさを増すことが予想される。

水道は、都市の基盤・市民のライフラインであり、将来にわたって安定的に事業を運営していく必要がある。そのため、持続可能な投資計画等を立案し、事業の経営基盤強化に取り組まれることを望む。